



【先週のメッセージより】ヨシュア5～6章

～ エリコの城壁が崩れる時 ～

● 角笛と神の箱が先頭に進んだ＝ご臨在と御言葉

毎朝角笛を吹き鳴らす祭司たちを先頭にし、次に神の箱が進み、さらにイスラエルの兵士たちがエリコの城壁を一回ずつ巡った。これは神の臨在（神がここにおられる）と神の御言葉（契約の箱の中身は十戒の板）の優先性と受け取ることができる。私たちの生活の中で常に神のご臨在を意識し、神の御言葉に先立ってもらうなら、あらゆる領域で勝利し、敗北することはない。

● 民は黙って行進した＝デボーション

角笛が鳴り、契約の箱が進む間、6日の間、民は一言もしゃべってはいけなかった。ここからは日々の生活において、まずは黙って神の御言葉に耳を傾けることの大切さを学べる。自分の浅はかな考えや、悟りのなさを自覚し、神が語ることに抗議をする前にまず黙って聞く！これは即、デボーションの習慣を身に付けることに他ならない。

● 7日目の陥落＝神が定めた時に御業が起きる

神の御業は早過ぎることもなく、遅過ぎることもない。ちょうどよい時、定められた時に起きる。私たちは自分の願った時に御業を願い、そうでないといらだったり失望したりするが、「神の時」を期待し、受け入れる信仰を養いたい。

● 聖絶のものには手を出さない＝罪との関わりを断つ訓練

神はエリコの町を聖絶することを要求された。それはエリコの人々のあらゆる習慣、偶像崇拜や墮落した道徳と関わってはならないことを意味した。私たちが救われた者として、この世に生き続けつつも、罪との関係を断つのである。私たちの生活の中に神が願われない物があるだろうか。聖絶の物を取り除くことを徹底しよう。■



【今週の英語】 Adrian Rogers "Adrianisms"より

Sin is not just breaking God's laws; it is breaking His heart.

罪は単に神の律法を犯すことだけではない。罪は神に深い悲しみを与えるのである。

【今週の暗唱聖句】 I ヨハネ 1 : 9

もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

★イエス様を救い主として受け入れ、罪赦された者とされても、なおも罪を犯し続けてしまうし、犯し続けることができってしまうという現実にも最初、失望する人がいるかもしれませんが、この現実を基本から理解し直すことが必要です。実は人は罪（自己中心）と戦う中で人格が整えられるのです。

★まずしっかり心に刻みましょう。人が犯す最大の罪は、神を無視し、神と関係なく生きようとすることです。イエスさまを信じて神の赦しと救いを受け入れ、神の子供とされた者はこの最大の問題が解決し、神との関係が修復されたのです。放蕩息子にたとえるなら、クリスチャンは家出状態ではなくなり、家に戻ってきて、再び家に住むことが許されている状態になったのと同じなのです。もはや追い出される心配をする必要はないのです。

★ところが、私たちにはかつての生き方から来る悪い癖、罪深い考えや行動が染み付いており、それらは神様の心を悲しませるものです。ですから、その罪と向き合っ一つ一つ、対処していくことが求められているのです。誠実に自分の罪に取り組む者には、必ず勝利の日がやって来ます。

★さて、「ごめんなさい」と神様に対する心からの後悔の感情と、「私は～という罪をあなたの前で、（また、誰々に対して）犯しました」と事実を認めることとは異なります。涙をもってごめんなさい、と主に告白する「砕かれた、悔いた心」を決して、主はないがしろにされません。しかし罪を離れる生き方に進むためには、「罪を言い表す」という主の命令に従わなければなりません。「言い表す」とは「事実を認める」という理性的、意志的なステップをキチンと踏むと言うことなのです。罪に名前を付けるのです。

★そしてその罪を捨てること。何度でも捨てましょう。私たちの体には罪の雑草の種がたくさん落ちていて、次々と芽が出てくるものです。敗北もありながらも罪と戦うなかで、罪の再生産のサイクルを断ち切って行くのです。

★最後に、赦しの確信のあるなしは、他人を赦せるか否かで表面化します。赦しがたい事件を経験した場合、感情まで癒されるには時間がかかります。しかし、7の70倍の原則（マタイ18章）を聞かされているクリスチャンは相手を赦すことを主から求められています。相手を赦したくないために逃げる人は、その段階で成長が止まるだけではなく、信仰における退行が始まります。しかし、他者に対する赦しを宣言し、過去の痛みがよみがえって来ても「もうあの人は赦しました。主よ、私の感情を癒してください。」と心に語り続ける人には確実に癒しと解放が与えられるのです。■